



第 59 回土木学会通常総会において私は土木学会功績賞を授与されました。感激の至りであります。まことに思いがけぬことで一体何が私の功績であったろうかと思惑させていただいておりますが、先輩諸氏のご教導と同僚諸氏のご協力が、この功績賞になったものと結論し、心から厚くお礼申し上げるしだいであります。

本州四国連絡橋はこの秋から着工の運びとなりました。本州四国連絡橋公団はあげて着工の準備に大奮であります。ここまでこぎつくことのできたのは、土木学会の本州四国連絡橋技術調査委員会の成果によるものであって、深く敬意を表するものであります。

この報告書ができ上がったとき、たまたま私が土木学会長のときであり、その私が工事の担当者になろうとは、まことに不思議なめぐり合せであります。

ペラザノ・ナローズ橋は調査委員会が作業中に完成し、その中央径間長 1298 m はいまでも世界最長であります。明石海峡大橋は下部工の関係から 1700 m 級が望まれています。土木学会には、これからもお世話をいただかねばなりません。

日本の土木学会が、世界土木学会の重鎮としてなお一層のご活躍あらんことを切に祈ります。

●私の履歴● 明治 38 年 11 月 17 日札幌市に生れる。昭和 4 年 3 月北海道帝国大学工学部土木工学科卒業、同 4 月内務省土木局に奉職道路技術事務に従事、その後東京土木出張所、下関土木出張所（関門国道トンネル）に従務、24 年建設省道路局建設課長、27 年道路局長、33 年建設技監、35 年退官三菱地所（株）入社、37 年日本道路公団副総裁、39 年退職、41 年同公団総裁、45 年 7 月本州四国連絡橋公団総裁拝命、現在に至る。68 歳。現住所：〒 167 東京都杉並区荻窪 1-8-12。電話（03）392-0828 番。

土木学会功績賞を受賞して

皆さんへの感謝——福田 武 雄

このたび土木学会の功績賞を戴き、まことに光栄の至りと存ずるとともに、自分も、本賞を頂戴するような年令に達したのかと考え、自分の昔のことを思い返してみました。

私は、大正 14 年に大学を卒業後ただちに復興局に奉職し、翌 15 年に東大助教授になりました。この間、当時の復興局橋梁課長田中豊先生指導のもとに東京豊海橋と新潟万代橋を設計しました。万代橋の設計料として当時の金で 2000 円を頂戴し、これを懐にして昭和 2 年から約 2 年間ベルリン大学およびベルリン工科大学に留学しました。自分の若き日のドイツにおける生活は、50 年近くたった今日においても、なお明らかに思い出せます。第二次世界大戦が始まって昭和 17 年、西千葉に設けられた東大第二工学部に移りました。終戦後、昭和 26 年に第二工学部は生産技術研究所に移行しましたが、この間の 10 年間、釘宮馨、岩崎富久、沼田政矩の諸先生、当時まだ青年であった岡本舜三、星埜和、堀武男、丸安隆和らの諸氏と学生諸君と苦楽をともにした西千葉での生活は、私にとっては一生忘れ得ないものであります。また第二工学部で学ばれた諸君が現在各方面において活躍されていることは、まことにうれしく思います。

それにつけましても、今回、私が功績賞を戴きましたのは、自分だけの力では決してなく、これら諸先輩、同僚あるいは学生諸君等のご指導とご支援の賜であると同時に、私に対し勉学と研究の機会と便宜とを供与された大学ひいては国家、さらにその背後にある国民のお蔭であるものと考え、深く感謝しております。今回の受賞を期として、さらに研鑽に努め、このご恩に報じたいと存じておるしだいであります。



●私の履歴● 明治 35 年 9 月大阪市に生れる。大正 14 年 3 月東京帝国大学卒業後、ただちに復興局に奉職、豊海橋を設計。大正 15 年 5 月東京帝国大学助教授、新潟万代橋を設計。昭和 2~3 年ドイツへ留学、昭和 7 年 12 月工学博士。昭和 17 年 4 月東大教授、第二工学部勤務、昭和 33 年 3 月東大生産技術研究所長、昭和 36 年 4 月名古屋大学教授併任、昭和 38 年 4 月定年退官、東大名譽教授。昭和 38 年 4 月千葉工業大学教授。現在、構造計画コンサルタント（株）取締役社長、千葉工業大学研究所長、文部省学術審議会委員、日本工業標準調査会委員。この間、昭和 8 年土木学会第一土木賞牌、昭和 47 年軽金属協会技術開発賞受領、昭和 48 年 4 月勲二等旭日重光章授与される。70.9 歳。現住所：〒 158 東京都世田谷区奥沢 5-22-4。電話（03）718-2874 番。